

て九姓回鶻もしくは單に回鶻と稱するものとは、その團體名としては同一義たるに至りしこと疑無き所なりとす。さればこそ此の頃よりして後は、九姓に屬する部族の活動としては、獨り回鶻部の事のみ傳へられ、唐書に唐初より各々別に傳を有したるその他の諸部は、殆んど全く記載せらるゝなく、たゞ極めて特種の場合に於て、九姓もしくはその中の僅少の部の消息が記さるゝに過ぎざるに至りしなり、さて回鶻即ち回鶻部によりて統率せらるゝに至りたる舊來の九姓團體は、唐の武宗の時(841-846)内亂を生じ、之が爲に兩唐書回鶻傳に見ゆるが如く、一部のものは或は葛羅祿に、或は吐蕃に、或は安西に入り、或は又甘州に入りて磧西諸城を保ち、また其の一部は懿宗の咸通七年⁽⁸⁶⁶⁾北庭より進みて西州即ち高昌を取り、此の地方に根據を固むるに至りしが、こゝに至りても彼等を稱するに從來の *Toquz Oyuz* の名を以てしたるものなるべきは極めて自然のことなりとす、而して此等の地方に據るに至りし回鶻なるものは、或は主として舊來の九姓中の回鶻部即ち *Toquz Oyuz* 中の *Uiyur* 部なりしならんも (*Uiyur* 以外の九姓諸部の之と混じたるもの少からざりしなるべきは疑無けれど)、然もその實質の如何は此の時に於る *Toquz Oyuz* なる名稱に就きては左迄重要なる關係を有せず、只だ從來 *Toquz Oyuz* と稱したるものゝ一部分が、其の本地より遷り來りたるものなれば、之に對して其の舊稱を以てしたるに外ならざるべし、茲に於てか此の名は既に *Reinaud* 氏の考へたるが如く、一は境土の近接せる關係上、一は支那に通ずる商路に當れる關係上、*Tuyuziyuz* として屢々亞刺比亞人の書中に記され⁽¹⁵⁾、西紀八五一年頃に成りし地理書に於て先づ之を傳へ、次に八七四年頃には *Ibn-vahab* により⁽¹⁷⁾、更に十世紀に入りては *Massudi* によりて傳へらるゝに至りしものに外ならず、かゝれば此等の人々によりて傳へらるゝ *Toquz Oyuz* \searrow *Tuyuziyuz* なる名が支那に所謂回鶻なるものに相當す